

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471400380	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	社会福祉法人 静友会		
事業所名	バーデンライフ山北		
所在地	(〒258-0113) 足柄上郡山北町山北202番地		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和7年12月6日	評価結果 市町村受理日	令和8年3月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・併設のデイサービスセンターは、天然温泉の大浴室がありますので、状況に応じて温泉浴を楽しんでいただいています。（月に1回程度）
- ・季節感を味わうために地元で観梅や観桜、紫陽花の見学、紅葉狩り等に行っています。また、時季の食事を楽しんで頂いております。
- ・年に一度ご家族を招待し、流しソーメンを7月に開催しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和8年1月14日	評価機関 評価決定日	令和8年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

JR御殿場線山北駅から徒歩10分、診療所隣に位置し、富士山を望む住宅街にあります。温泉を提供する施設として開設して20年が経過している事業所です。

<優れている点>

1階に同法人のデイサービスと居宅介護支援事業所、2階に1ユニットのグループホームを配置しています。南面の明るいきりびんぐには畳コーナーを設け、演芸ボランティアの発表舞台や利用者同士の交流の場として活用しています。年度末に各職員の自己目標について個人面談を実施し、モチベーション向上につなげています。大手スーパーの移動販売車がホームの園庭を駐車場所として活用し、地域住民との交流の場を提供しています。100歳の利用者が昼夜を問わず布パンツを着用し排泄自立を維持しており、残存機能を活かすズボンの上げ下げのみ支援するなど過剰介護を行わず、時間を決めた事前の声かけと日々の観察チェックにより自立支援の取り組みを継続しています。

<工夫点>

介護計画を重要視し独自のモニタリングシートを作成し、介護計画の見える化と日々の進捗を一覧できる仕組みを導入しています。全職員が日々のチェックに参加することで、計画づくりへの関与を促しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	バーデンライフ山北
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが ○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに ○ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている ○ 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	年度の初めや新しく職員が入植の際、理念の共有、確認をしています。また各個人の年度目標を立てております。	職員全員が理念を日常業務で実践するため、「安心」と「あなたらしい暮らし」を真心でお手伝いという独自の理念をリビングや事務所の目が届く場所に掲示しています。また、必要に応じて会議などで職員への啓発を行い、常に理念を意識できる環境を整えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所を開設して21年目となりました。ここ数年新型コロナウイルス感染予防の為、交流はほとんどできておりませんが、散歩などに出た際、近所の方などお会いした時には、ご挨拶程度はしております。	新型コロナ感染の影響で地域行事が減少する中、地域との継続的なつながりを維持するため、地域行事でのホーム訪問時に交流を行っています。日常的には、散歩などの外出時に地域の中を歩き、これまでの暮らしの延長線上にある日常を継続できる環境を整えています。	新型コロナ感染の影響で地域との交流機会が減少している中、利用者の作品を発表する場設けるなど、地域とのつながりを広げる取り組みが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を利用して、町担当職員や民生委員の方に、近所や町民の方へむけた介護・認知症に関する質問を受け付けていることをアナウンスして頂いていますが、実践には至っておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	自治会長、民生委員、家族代表、町担当職員、施設長、管理者の計6名にて構成しております。ほぼ毎回全員の方がさんかしてくださり、事業報告や計画、意見交換を行っております。	地域・家族・行政と連携し運営の透明性を確保するため、2ヶ月に1度、自治会長・民生委員・町役場担当・家族などが参加する運営推進会議を開催しています。会議ではホームの状況を報告し、職員不足という課題を共有することで、行政から刊行誌への掲載協力など解決策の提案を受けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	適時、担当者を訪れたり電話を掛けたり、また、運営推進会議にて施設の状況を伝えております。施設の相談事項が出来た場合には早急に対応して頂いております。	行政主催の会議の機会は限られていますが、入居相談など必要に応じてグループホームとの連絡・相談を行い、連携に努めています。また、広域のグループホーム協議会については、案内があった際に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	会議において適時、話し合う機会を持つようにしております。また、身体拘束廃止委員会にて他部署ともお互いに相談・検討を行っています。	身体拘束のない環境を維持するため、3ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会を開催しています。基本的な身体拘束に関する学習を継続的に実施しています。会議を定期的の実施し、常に意識を向けることで、職員同士の意識を高めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議や身体拘束廃止委員会にて虐待について話し合う場を設けおります。また、職員同士が注意しあえるよう心掛けておりますが、伝えづらい場合、ご意見箱を活用し、会議等にて話し合っております。	身体拘束の会議と同様に3か月に一度、話し合いをしています。職員間の自由な意見交換を促すため、直接発言しにくい内容を共有できるよう意見箱を設置しています。職員同士の話し合いの機会を設けることで、さらなる職員の意識向上を目指しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、対応の必要とされる利用者はおりませんが、今後必要とされるケースがあった場合、職員と一緒に学びたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設の方針をしっかりと丁寧に説明し、利用者・家族の要望を聞き、出来る事・出来ないことを明確にしています。また、料金の変更がある場合にはその都度同意書を頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からは直接職員へ意見や要望を伝え、家族からは電話での連絡が主となっております。これらの内容は必要に応じて会議や申し送りでも共有し、即対応を心掛けております。	家族との連絡は、管理者の携帯電話で24時間常に受けております。家族からの要望は日常的な依頼が中心となり、安定した信頼関係維持に努めています。利用者に常に寄り添うことをモットーに、コミュニケーションをとる中でその人の思いを把握するように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回の職員会議や毎日のミーティングの中で適時、意見・要望を聞くようにしています。また、年度末の個人面談で直接施設長へ伝える機会があります。	職員の意見を業務改善につなげるため、毎月の職員会議のほか、必要に応じてミーティングを実施し、意見交換の機会を設けています。また、年度末には個人面談を行い、年間目標の実施結果をもとに、個人の課題と取り組み方向を確認できる場となっています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事評価制度にて職員のモチベーションアップをはかり、自己評価、上司の評価、施設長の評価また、面談にて就業環境に関する意見を施設長へ伝える事ができるようにしています。	職員の公正な評価と意欲向上を図るため、年間を通じて人事考課を実施しています。職員の自己評価に管理者と施設長の評価を加えた多角的な評価を行い、面談での意見交換を通じて職員の意欲向上につなげています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年3回程度講師を招き、施設内研修を行っております。外部研修に関して、コロナ禍の為、参加できておりません。	職員の専門性向上を図るため、外部の専門機関から講師を招き、職員の要望などに基づいたテーマで年間3~4回の研修会を定期的実施しています。また、法人独自の研修として、中堅職員を対象とした研修も実施しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	足柄上、南足柄地区の情報交換の場にて、各施設の課題や問題をお互いに意見交換し自施設に反映できるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	申し込みの段階から本人の希望、生活歴、次に家族の希望・要望を聞くことに努めています。事前面談の際には、再度確認して不安のある場合には解決できるよう説明致しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	多くの方々が申し込みの段階で希望や要望を話してくれます。申し込みから事前面談、入居の流れの中で不安や要望を解決できるよう家族やご本人と話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前の相談より要望や問題点の解決策を家族または職員間、時にはケアマネなどの他職種の方と話し合うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	敬う気持ちを第一にし、お互い信頼関係を作りながら本人の思いや何気ない会話を大事にしています。ご本人のできることを積極的に行って頂き、役割を持って頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	支援する・されるというスタンスでなく、家族と一緒に利用者を中心に考え支援に努めています。また、日頃よりまめな連絡をするよう努めています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人や場所がある場合には大事にしております。また入居生活では新しい事にも挑戦して頂いております。	利用者の個別性を尊重した支援を行うため、入居時に馴染みの人や場所の情報を把握しています。外出時は家族と連携して対応し、困難な場合はホームで対応しています。好みの服を自分で選ぶ機会を設けるなど、これまでの暮らしの継続を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性は日頃の観察にて常に職員間で情報を共有しています。利用者同士のトラブルには早期解決、その後の関係がうまくいくよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了しても利用者が大きく生活が変わらないよう情報の提供、連携に努めています。また、必要に応じて家族の相談にも乗っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前より本人、家族から情報収集を行い、入居後は担当職員が中心になって情報収集行っています。その後、全職員へ情報の共有を行い、その方にあったケア方針を決定いたします。	利用者の望みを支援につなげるため、日々の暮らしの中や誕生日が近づく時期に、叶えたいこと・欲しいもの・食べたいものなどを聞く機会を設けています。得られた情報は申し送りやノートなどで職員間で共有し、個別の支援内容に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	自宅で暮らしていた時のスタイルと大きく変わらないように、入居前の聞き取りを本人、家族より念入りに行い、入居後も暮らしやすい場所になっているか観察、評価をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりの中で、利用者の生活のリズム・無理のない1日の過ごし方、また、出来る事や好きな事を聞いたり見つけたりした事を職員同士で話し合い、利用者の出来る事の可能性を引き出す支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は職員からの聞き取り、本人や家族からの要望に反映した計画書を作成しています。それに基づいたモニタリングを毎日行い、適時、見直しを行っています。	利用者一人ひとりの介護計画の質を高めるため、毎月の職員会議内でカンファレンスを実施し、意見交換の内容を計画に反映しています。短期目標達成に向けた日々の支援を毎日チェックし、必要に応じて観察や考察を記録して次の介護計画にフィードバックしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の個別記録を細かく記入し、連絡帳を活用して見落としがないよう職員間の報告も忘れないようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームのケアにとどまらず、デイサービスの利用者や他部署のスタッフとの交流を可能な範囲で持ち、マンネリにならないよう務めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍において、地域との交流がかなり少なくなりましたが、可能な限り関わりが持てるよう努めております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎月定期的な訪問診療、必要に応じて医療機関、家族への相談にて、早い段階で適切な医療が受けられるよう支援しています。	利用者の健康状態を継続的に管理するため、入居前のかかりつけ医を継続し、月2回の定期往診を実施しています。専門外の診療は必要に応じて紹介状を発行し、緊急時は管理者または施設長から主治医に連絡し、救急搬送などの指示に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	デイサービス所属ナースが、朝・昼の1日2回グループホームへ来て、入居者の状態を報告、週1回のバイタルチェックなど健康管理を行っています。また必要に応じて訪問診療に来て頂いている看護師に報連相を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ドクターやナース、地域連携室などから情報を聞き、状態把握に努め、退院後、施設に戻って来た後の生活について相談しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	状態悪化により、施設生活が困難になった場合、本人や家族が望む生活を選択して頂くが、現在看取りを行っておりませんので関係機関と連絡を取り行先決定の支援を行っております。	利用者と家族が安心して入居できるよう、入居契約時に看取り対応を行っていないことを説明しています。必要に応じて法人内の特別養護老人ホームへの移動や病院への入院で対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルを閲覧できるようにしており、年1回程度の訓練を行っております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼・夜を想定した避難訓練を定期的に行っています。また、運営推進会議にて自治会長はじめ、地域の方への協力体制を築いております。	地域と連携した防災体制を整えるため、地域開催の訓練に参加しています。ホームの訓練への地域住民の参加には至っていませんが、夜間・地震想定火災訓練として通報・消火・避難を実施し、消防署の指導のもと2階フロアでは屋上バルコニーへの避難を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに合った声掛け対応を行っておりますが、常に相手に敬いの心と態度で接しております。もし、声の掛け方に問題があった場合、職員お互いに注意するよう努めております。	利用者の人格尊重と尊厳を守るため、不適切な言葉遣いが見られた場合は職員全員で振り返りを行っています。また、プライバシーへの配慮として、トイレに関する声かけは他の利用者がある場で行わず、小声で伝えるよう統一しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が思ったり、感じたりした事を遠慮せずに職員に伝えられるように普段の関わりの中で信頼関係に心掛け、伝える事の困難な方には表情や行動で察知できるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な日課に沿って生活して頂いております。その中で本人の希望があれば希望に沿った支援をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人のお好みに合わせた支援に努めております。行事などでは、こちらから声掛けでお化粧を勧めしております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	誕生日や新しく入居された時、月に数回お楽しみメニューを提供しております。新聞に入ってくる広告や皆さんの希望を聞いて外の食事を注文しております。また、適時手作りおやつと一緒に作っております。	利用者が食事を楽しめる環境を整えています。朝食と夕食はホームの手作りで提供し、昼食は1階のデイサービスや同法人の特別養護老人ホームと連携して調理しています。新聞広告の出前を注文したり、外出して寿司や海鮮丼を楽しむ機会を設けるほか、おやつにスイートポテトを皆で作ることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりに合った形態にて提供、摂取量をチェックし、声掛け等しながら支援に努めています。極端に食事量が少ない場合、主治医に相談し経腸栄養剤を処方して頂き、おやつなどで提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、毎食後(計4回)一人ひとりに合った口腔ケアをしています。義歯は就寝時に消毒し、歯ブラシ・コップも毎日消毒しています。毎月歯科の訪問診療を受け、必要な指導を頂いております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的にトイレ誘導を行っています。個々の排泄パターンを適時把握し、特に日中はトイレでの排泄ができるよう支援しています。	利用者の排泄自立を支援するため、日中は全員がトイレでの排泄を行い、残存機能を活かしてズボンの上げ下げのみ支援する利用者もいます。100歳の利用者を含め昼夜を問わず布パンツを着用し、時間を決めた早めの声かけと日々の観察チェックにより自立した排泄を維持しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給に気をつけ、体操等により身体を動かし予防に取り組んでいます。主治医にも相談をしております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2～3回、一人ひとりに合った入浴を支援しています。時期によって変わり湯(バラや菖蒲、ゆずなど)、温泉浴も月に1回程楽しんでいます。	利用者がゆったりとした入浴時間を過ごせるように配慮しています。「信玄の隠し湯」と伝わる中川温泉の湯元からタンクで運んだ温泉を1階のデイサービスで提供し、グループホームの利用者も温泉に入る機会を設けています。ホームの個浴では季節の柚子湯など、職員と1対1でゆったりとした入浴時間を確保しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの習慣・希望に合った支援をしています。また、その日の体調により日中の臥床も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬を理解し、服薬の支援をしています。服薬時も見守り、服用できたか確認しています。また、必要に応じ主治医に相談しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居の段階で家族より情報を得て、入居後はご本人より情報を得よう努め、一人ひとりに合った役割を見つけ持って頂き、見守り・介助・時には職員と一緒に行動するなど支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍において、外出の機会が少なくなりましたが、できる限りドライブや散歩ができるよう支援いたしております。中には定期的にご家族と外出される方がおられます。	利用者が季節の変化を楽しめるように、春は車2台で全員が花見ドライブに出かけ、菜の花や桜など季節の自然に触れる機会を設けています。夏前にはアジサイ祭りへの外出機会を設け、真夏を避けてバルコニーでの外気浴や遠景の山を眺める時間を確保しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設での金銭管理は行っておりませんので、本人の希望があれば家族に承知して頂き、本人に管理して頂いております。毎週水曜日に移動販売車が来るので、順番に買い物を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人より希望があった時、また場合により職員から声掛けし、電話や手紙ができるよう支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂や廊下に皆さんで作成した貼り絵・ぬり絵・写真等を展示しています。温度・湿度調整もこまめに行い、居心地よく過ごせるよう支援しています。	似顔絵を得意とする職員の作品を掲示し、利用者が日常的に作品に触れる機会を設けています。新年の書き初めでは利用者一人ひとりの個性ある言葉と書体を展示し、自己表現の機会を確保しています。また、畳コーナーの上がり框では利用者同士が座って語り合える場を設けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりに合った居場所（自席）を工夫しています。自由に過ごせる畳スペース・ソファを用意してあります。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具・ベッド・座椅子等、ご自宅で使用していた馴染みの物を持ってきて頂いております。希望により業者からベッドのレンタルを行っております。	利用者が馴染みの暮らしを継続できるよう、各個室は畳敷きで、収納扉付きのスペースを確保しています。家族の写真や位牌、自身の創作品など個人の持ち物を置ける環境を整えています。エアコンを完備し、ベッドは持ち込みまたはレンタルで対応しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来るだけ自立した生活が出来るよう手すり・表示等工夫しています。		

2025年度

事業所名

作成日：2026年 3月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ渦において地域行事が減少し、地域交流が行えてなかった。施設としてコロナ前の対応に戻すようにしている。	町主体で秋に行っている文化祭への出展及び参加をしたい。	毎年秋に行われている文化祭に向け、利用者皆さんで作品を作成・出展し、見学に行きたい。	6ヶ月
2	10	年3回程度講師を招いての施設内研修を行っているが、更に充実させたい。	年間を通して月1回の施設内研修の実施。	4月より外部講師を招き、1年間通して月1回の施設内研修を行っていく。	12ヶ月